令和６年３月 21 日
国立大学法人東京芸術大学
学長選考・監察会議

# 国立大学法人東京芸術大学長の令和４年度業績評価について

東京藝術大学学長選考・監察会議規則に基づき、令和４年度における国立大学法人東京芸術大学長の業務執行状況を確認し、評価を実施しましたので、下記のとおり公表します。

記

１．学長氏名
日比野　克彦

２．評価対象期間
令和４年４月１日～令和５年３月 31 日

３．評価方法
業績評価は、（１）就任時の所信表明に掲げる項目の進捗状況、（２）中期目標・中期計画の進捗状況、（３）特筆すべき事項についての進捗状況、（４）意思決定プロセスなどの適確性、の４項目について、学長から提出のあった業務実績報告書及び学長本人へのヒアリングにより行った。また、監事、役員、部局長及びその他教職員からの意見聴取及び監事による監査結果並びに令和４年度自己点検・評価等も参考とした。

４．評価結果
学長の業務は概ね順調に遂行されていると判断する。

（内容）
強いリーダーシップを発揮し、未来志向のビジョンを提示するとともに、学長自らが積極的かつ迅速に行動し、所信表明で掲げた事項や中期目標・中期計画について着実に取り組んだ点を高く評価する。
特に、国立研究開発法人科学技術振興機構の共創の場形成支援プログラム本格型への昇格や、令和５年４月の「芸術未来研究場」の創設に向けた取組により、本学が第４期中期目標に掲げる「芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会課題の解決」を全学的に推進するための基盤を作り上げた点は大いに評価できる。新たな構想の実現には、大学経営やマネジメントを担う人材や運営体制が不可欠であるため、「芸術未来研究場」と

いうプラットフォームや外部資金の効果的な活用を通じ、人材育成のための制度構築や事務部門を含めた組織改革に取り組み、基盤となる教育や研究の充実等を含めた大学運営の改善・向上に繋げることを期待する。

なお、新たなビジョンを打ち出し、実現していくスピード感ある実行力は評価できる一方で、学内での丁寧な議論、説明及び情報共有とのバランスの難しさが認められるため、意思決定プロセスにおける意見交換・合意形成へのさらなる注力、目指す方向性についての学内コミュニケーションの継続によりガバナンスの実効性を高めつつ、ビジョンの実現や大学経営マネジメント等を補佐する体制の充実を通じて、学長のリーダーシップがより一層発揮されることを望む。

以上